

令和2年度 東大阪大学敬愛高等学校 学校評価

1. めざす学校像

学園訓(万物感謝・質実勤労・自他敬愛)の具現を図り、知力の充実とともに豊かな心を育む人間教育を推進する。また、生徒の個性を尊重し、優しさで規律ある敬愛生の育成に努め、保護者から信頼され、地域社会にも開かれた学校を目指す。さらに、社会のニーズに対応したコース編成により、個々の進路や夢の実現を図る「中堅進学校」を目指す。そのためには「生徒をいかにして伸ばすか」「どのようにすれば面倒見の良い教育ができるのか」「どうすれば保護者・生徒から信頼される学校になれるか」を考える。

2. 中間目標

教育活動目標

1. 生徒が楽しめる学校行事の充実
2. 生徒の規範意識を育てるメリハリある生徒指導
3. 生徒が望む進路実現に向けた学習活動の充実

I 教育内容の充実

イ) <<教科指導――授業改革。ICT教育の充実>>

- ・ 生徒の学習意欲を引き出す「学びのPDCAサイクル」、全学年、毎週の小テスト、学期ごとに「学力診断テスト」を継続。
- ・ 全教室にあるプロジェクター・ノートパソコンの有効利用。
- ・ 生徒用タブレット端末40台完備した「アクティブラーニング教室（ICT教室）」を新設。
- ・ タブレット端末を利用した授業の教員研修を実施。

ロ) <<学級経営――担任の取組>> ―規則正しい生活習慣・規範意識・学習意欲の推進―

- ・ 学びの振り返り
「Step Up Note」（学力向上と振り返り）を生徒各自が作成し、基本的な生活習慣・学習習慣を5段階に見える化し、生徒の自主的な振り返りを促す。
- ・ ICT教育の一環として、学習アプリ「Classi」を導入し、生徒のあらゆる情報を「生徒カルテ」として蓄積し、教師と生徒・保護者間で共有し、保護者と連携を取りながら遅刻・欠席をなくし、規範意識を育て、イエローカードゼロを目指し、目標GTZ（学習到達ゾーン）に向けた学習計画をたて、学力向上も目指す指導を実現。

II 各コースの充実

イ) 「総合進学コース」

- ・ 選択科目「敬愛講座」を進路保障に直結した科目に変更。
- ・ 特進クラスのカリキュラム改訂。
- ・ 「敬愛ゼミ」を7限目補習として開設し大学進学指導の充実を図る。

ロ) 「こども教育コース」

- ・ 生徒が喜んで学習ができ、将来の進路にも役立ち、生徒募集にもつながるカリキュラムに変更。
- ・ 東大阪大学こども学部と短期大学部実践保育学科に直結したコースとして、大学・短期大学部との連携推進。

ハ)「調理・製菓コース」

- ・ 栄養士と製菓衛生士の資格が取れる直結コースとして東大阪大学短期大学部実践食物学科との連携推進。
- ・ さらなる特色づくりを目指し、カリキュラムの変更も含め、外部に向けた「食」に関するコース行事を検討。
- ・ 3年では実際の飲食店で仕事を体験できるインターシップ制度を導入。
- ・ 保護者への「感謝の食事会」を充実させる。

Ⅲ 生徒会活動の充実

- ・ 最大の行事である「体育祭」と「敬愛祭」をより充実したものにする。
※新型コロナウイルス感染症対策のため、体育祭はラクタブドームで開催、敬愛祭は中止。
- ・ 生徒会役員が中心となり企画運営し、生徒たちが楽しめる行事を増やし、楽しい学校づくりを目指す。
- ・ 生徒会役員で作るデジタル生徒会新聞の発行。

Ⅳ 生徒指導の徹底

- ・ 『生徒指導規範』に基づく指導方法(イエローカード制)の項目を再検討。
- ・ 生徒・保護者が納得する厳しからず甘からずメリハリのある生徒指導を目指す。
 - イ) 生徒への愛情が基本にある厳しい指導で生徒の「規範意識」を育てる。
 - ロ) 規則を守り困難に耐えさせることが、人間として人格形成に欠くことのできない必須要件であることを生徒に理解させる。
- ・ イエローカード指導ゼロ生徒 80%を目標とする。

Ⅴ 進路保障の徹底

- ・ 「総合的な探究の時間」を利用し、新しい時代に必要な資質・能力の育成に向けた自己の在り方と生き方を考え、自ら課題を発見し、将来進むべき道を学級担任とともに考え、進路指導の徹底を図る。
- ・ 補習授業の充実と「敬愛講座」の科目変更による進学実績の向上を目指す。
- ・ 東大阪大学・短期大学部への内部進学者や指定校推薦入試や A0 入試での進学者を増やす。

Ⅵ 入試広報部の充実

- ・ 選定入札を行い学校案内と HP 制作会社を変更し、より充実したものにする。
- ・ 在校生が主になり本校の特色を説明し、中学生が本校の良さを理解してもらえるようにオープンスクールと入試説明会の内容を検討する。
- ・ 東大阪市・八尾市等地元中学へのアピール内容・訪問回数を増やす。
- ・ 塾訪問は塾長説明会参加増に心掛け、塾生を推薦してくれている塾にはさらに訪問回数を増やし、継続的に入学生確保に努力する。

《生徒・保護者》

1. 「入学してよかった」 ほぼ 8 割の生徒・保護者が高い評価をしている。年々評価が上がってきている。
2. 「分かりやすい授業が行われている」 プロジェクターやタブレット端末を使用し、見やすい板書など、先生方は教え方を工夫していると高い評価を得ている。
3. 「生徒指導は充実しており、朝礼時の担任によるマナー指導が、身だしなみの改善に役立っている」は生徒と保護者とも、ほぼ 9 割近くの肯定評価である。
4. 「いじめの防止・早期発見に努め、安心・安全な学校の運営に努めている」生徒 7 割、保護者 8 割の肯定評価であるが、生徒と保護者で少し差がある。
5. 「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の実現に十分役立っている」生徒保護者とも 8 割の肯定評価であるが、より充実させていきたい。
6. 「先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれている」生徒保護者とも 8 割の肯定評価をしてくれているので、本校のキャチコピーBeside You, に近づいている。
7. 「敬愛祭・体育祭など学校行事は充実している」生徒・保護者とも、コロナで満足した学校行事ができなかったせいか、70%後半でまずまずだが、80%に達してない。学校行事の改善が急務である。
8. 「部活動が活発に行われている」は生徒・保護者とも 8 割の肯定評価、部員数も増加傾向にあり、今後が期待できる。
9. 「校舎の美化が図られ、学校の施設・設備は満足できるものである」8 割から 9 割の肯定評価である。新校舎になってから評価が良く、今後も美化に努め、維持していきたい。
10. 「生徒が安全に学習できるように、校舎やグラウンドなどの施設・設備が整備されている」保護者の肯定評価が 100%近いのに、生徒の肯定評価と若干差があるのは今後の検討課題である。
11. 「生徒の生活について、学校と家庭との連絡・連携が十分に図られている」生徒・保護者とも 70%台の肯定評価で、少し足りない部分は何なのか、検討していきたい。
12. 「学校は、ホームページやメール配信でよく情報を発信している」生徒・保護者とも 8 割から 9 割の肯定評価で充実している。
13. 「学校で災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか、知らされている」生徒・保護者とも肯定評価が他に比べると高くない、来るべき災害に備えて、早急に検討していく課題である。
14. 「学校は、新型コロナウイルス感染防止対策に積極的に取り組んでいると思う」8 割の肯定評価であり、学級閉鎖等が行われていないので、生徒・保護者の意識の高さもあり、成果が出ている。

4. 学校評価委員会からの意見

- ・「入学して良かった」の評価が良いのは、学校としての取組みが評価されていると思う。
- ・先生方の積極的な ICT 教育への取組みが理解できる。
- ・教員の熱心なイエローカード指導やマナー指導の効果があらわれている。
- ・いじめは見えにくい部分もあるが、生徒に寄り添う姿勢が防止対策に繋がっている。
- ・進路指導は結果次第。満足できる進路保証を期待する。

- ・学校行事は保護者が行事に多数参加してくれることが高評価に繋がる。
- ・災害時の対応については防災意識の高まりから遅れているのではないかと、早急に検討していただくことを期待する。
- ・アンケート調査の全般的な印象は、生徒達は落ち着いた高校生活を過ごしており、保護者の印象もおおむね高評価を得ているようで、学校が目指している方向である、生徒の進路保証を確実にし、強いては進学実績を上げ、部活動が活発になる「文武両道の学校」の実現を期待する。

5. 本年度の取組内容及び自己評価

中間 目標	今年 度の 重点 目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
教科 指導 の充 実	授業 研究	生徒の学習意欲を引き出す「学びのPDCA サイクル」の構築のため、全学年、毎週金曜日の小テストと学期ごとの学力テストを継続。 次年度からのタブレット端末導入と「アクティブ・ラーニング」の充実と ICT 教育充実に向けて、研究授業を実施。	わかる授業と 生徒の学習 意欲の向上	新型コロナウイルス感染症対策で当初の予定通りにはいかなかった。Step Up Note で学習意欲の確認を行ったが、満足できる状況にはなく、引き続き取り組んでいきたい。
生徒 指導 につ いて	生徒 指導	毎朝、担任による朝礼時のマナー指導を行い、イエローカードの指導を徹底し、規範意識の向上に努める。スマートフォンは禁止するのではなく、マナー指導に切り替え、厳しからず甘からずのメリハリのついた生徒指導を行う	校則を守らせ 各学級がイエ ローカード指 導ゼロを目指 す	イエローカードによる効果ははっきりと表れ、80%の生徒が指導0となり、規範意識が芽生えてきた。更なる飛躍に向け継続して指導に当たっていく。
進路 指導 につ いて	進路 状況	LHR と「総合的な探究の時間」を利用し、将来進むべき道を学級担任とともに考え、進路指導の徹底を図る。総合進学コースの「敬愛講座」と特進クラスの科目変更による進学実績の向上を目指す。 東大阪大学・短期大学部への内部進学者を増やす。	内部進学率と 進路達成率の 向上を目指 す。	1年から進路を考えるようになったが、100%の進路保証に繋がっていない点、検討課題である。Cコースのほぼ全員がそのまま内部進学したのは画期的な結果であった。
入試 広報 部活 動	生徒 募集	選定入札を行い学校案内と HP 制作会社を変更し、より充実したものにする。在校生が主になり本校の特色を説明し、中学生が本校の良さを理解してもらえるようにオープンスクールと入試説明会の内容を検討する。塾訪問は早い時期から担当を決め実施。	OS・入試説明 会参加数を増 やし、入学者 数増につなげ る。	新型コロナウイルスの影響により、公立志向が高まったのか、入学者が減少してしまった。次年度は OS や入説内容の思い切った改革が必要。